

オルガノン要約 § 121～136

§ 121 作用の穏やかな物質のプルービングは感受性の強い健康人で行わなければならない。

§ 122 純粹性、真正性、効力の完全性に関して確信があるものだけをプルービングすること。

§ 123 プルービングする物質は手の加わっていないものだけを使用する。

§ 124 プルービングの際、その素材は複数のものを同時に使用してはならない。

§ 125 プルービング中は刺激のない食事をすること。

§ 126 プルーバーの資質：

- A) 信頼の置ける誠実さ。
- B) 不摂生と強い感情を慎むこと。
- C) 観察を続ける力、細心さ。
- D) 表現する知性。

§ 127 性に関する状態の変化を知るためにプルービングは男女で行う。

§ 128 最近の経験では粗野な物質ではレメディに隠された非常に多くの効力は発現しないことが判明した。ポータンタイズしたレメディでプルービングすることで、隠れていたエネルギーの作用を知ることができる。

30C のものを湿らせるか溶かす。1 日 4～6 粒を数日間、空腹時に摂取する。

§ 129 プルービングの際は、レメディの差、個人差が非常に大きいので、微量から始め、その個人に合わせながら次第に増やしてゆくのが極めて賢明である。

§ 130 レメディの強さが最初から適切なら、症状を正確に記録できる。作用の持続時間はいくつかのプルービングを比較することで知ることができる。

§ 131 プルービングで起こすことができる症状はどのように現れるかわからないので、一次作用と二次作用が判然としないときは、判断を保留すること。

§ 132 作用の穏やかなレメディをプルービングするときは、数日間、毎日増量しながら投与すると良い。

§ 133 症状が出ているときに、いろんな環境に出て行くことでモダリティーを確認することができる。そうすると症状像がより明確になる。

§ 134 レメディの全ての症状は一人だけに表現されないし、一回で表現されるわけでもない。多数のプルーバーに共通する・繰り返す症状があるだろう。

§ 135 プルービングの情報を確実にするのは多数の性質の異なる男女の身体を用いること。その後プルービングを続けてもそれ以外の症状がもはや現れなくなったときプルービングは完全となる。

§ 136 レメディは全ての健康な人に症状を生み出す力を持っている。それ故、その病的状態に類似した症状が認められる患者に対して、ホメオパシー的に選ばれたレメディを微量投与すれば、有効に働き、健康に導く。